

千波湖環境学習会を開催しました

当協会は、水戸市との協働事業として、体験しながら環境問題について考える「千波湖環境学習会」を、月1回のペースで開催しています。毎回、100名を超すたくさんの方に参加していただき、この学習会を通して、環境保全活動の輪が広がっていることを感じ、うれしく思います。

第2回目の6月1日は、茨城県環境アドバイザーの広瀬誠先生を講師に迎え、強い日差しが照りつける中、水戸ホーリーホックのマスコット「ホーリーくん」も駆けつけてくれ、「草原の昆虫と千波湖導水を調べよう」をテーマに実施しました。

最初に、千波湖に流入している桜川導水の働きや浄化の仕組みについてパネルを見ながら説明を受けました。千波湖には桜川から年間を通して一定量の導水があり、水質浄化に大いに役立っていることを学びました。

次に、四季の原広場まで昆虫観察に出かけました。そこで捕まえた昆虫を先生の所へ持って行き、その生態や特徴等について詳しく尋ねました。モンシロチョウやショウリヨウバッタなど約30種類を観察することができた中で、小学5年生の女の子が捕まえたラクダムシという昆虫がいました。中胸が膨れているところがラクダを連想させることからついた名前だそうで、体は細長く、背中が黄色と黒の縞模様になっている特徴があり、広瀬先生は「40年ぶりに見た！」と少し興奮しておられました。



【四季の原で昆虫採集】



【ラクダムシ】



【生物の調査】



【ミシシippアカミミガメ】

第3回目の7月6日は、「千波湖ビオトープの魚を調べよう」をテーマに、当協会の職員が講師となり、水戸市が市民協働で平成24、25年にそれぞれ造成した、ハナミズキ広場および千波湖の東側のビオトープに入って、生息している生き物を採取して調査しました。ヨシノボリやウキゴリなど約13種類が確認できました。千波湖ビオトープでは特定外来生物のブラックバスや要注意外来生物のミシシippアカミミガメが捕獲され、他の魚に影響を及ぼすため、処分しなければいけないということを学びました。

次に、千波湖、桜川、湧水の水質検査を行いました。生活排水が流れ込んでいる千波湖や桜川の水は、湧水よりも汚れているという結果に、みんなで水質改善に取り組んでいかなければいけないことを学びました。

今後の学習会は、7月27日に、「森林の昆虫とヒカリモを調べよう」、8月17日に、「千波湖内に入って水生生物を調べよう」、9月7日は、「周辺湿地帯の昆虫を調べよう」をテーマに実施する予定です。ぜひ、濡れてもよい服装でご参加下さい。